

国保連合会 News!!

国保くまもと Vol.245 (2021年3月号)

◆令和2年度保健事業支援・評価委員会

専門家の助言などの支援を実施

国保保険者及び後期高齢者医療広域連合における効果的・効率的な保健事業の展開を支援するため、本会に設置している熊本県保健事業支援・評価委員会（以下「評価委員会」という。）では、例年3回の評価委員会を開催し、保険者への直接助言を実施するとともに、8保険者程度を訪問し、委員による個別支援を実施しています。

令和2年度は、コロナ禍の状況を踏まえ、第1回の評価委員会を書面にて開催しましたが、第2回及び第3回については、感染対策に留意した上で、集合形式により開催し、参加保険者からの事業実施状況の報告を踏まえた意見交換を行うとともに、医師や保健師などの専門職から選任された評価委員から、専門的な知見に基づく丁寧な助言を受けました。

参加保険者からは、「事業の実施に当たり、評価委員の助言が参考になった」などの声も聞かれ、有意義な内容でした。

【 評価委員会での支援・助言 】

○第1回：令和2年7月（※書面による開催）

議題：①令和2年度事業計画（案）について

②評価委員会への支援希望内容と支援方法（案）について

○第2回：令和2年9月24日（木）

議題：①参加保険者からの事業実施報告について

②委員からの助言について

参加保険者：水俣市・宇土市・宇城市・和水町

○第3回：令和2年12月7日（月）

議題：①参加保険者からの事業実施報告について

②委員からの助言について

参加保険者：人吉市・八代市・菊池市・錦町

【 保健師委員による個別支援 】

○7月29日（水）：玉東町

○8月6日（木）：益城町・御船町

○9月9日（水）：小国町・南阿蘇村

○10月7日（水）：高森町

○10月29日（木）：宇城市

○11月13日（金）：天草市



委員会の様子

◆12/10 令和2年度第3回データヘルス計画の効果的な実施に向けた学習会

結果を出す保健事業への転換を！

火の国ハイツにおいて、本会主催のもと、令和2年度第3回データヘルス計画の効果的な実施に向けた学習会を開催し、市町村並びに熊本県後期高齢者医療広域連合の担当者計118人が参加しました。

冒頭で、講師の熊谷勝子氏は、「国は、今後ピークを迎える高齢化社会を見据え、社会保障費の安定を求めている。これからの保健事業は、単に事業を実施することが目的ではなく、いかに結果に結び付けていくかが重要。」と述べ、保健事業の評価指標を追加、修正していく必要に触れられました。

また、保険者に策定が義務付けられているデータヘルス計画において中長期目標疾患とされている脳血管疾患、心疾患及び腎臓疾患とその原因とされる糖尿病や高血圧症などの生活習慣病の対策では、「食」に対する学びを深めることで、地域における食生活の成り立ちを理解し、住民にわかりやすい保健指導に繋げていくことの重要性を強調されました。

最後に、「今取り組んだ保健事業が将来の結果に繋がる。10年後の熊本県を楽しみにしている。」と参加者に激励の言葉を掛けられ、学習会を終了しました。



学習会の様子

◆12/11 令和2年度第3回データヘルス担当研修会（力量形成）

課題解決に向けた取り組みを学習

熊本県市町村自治会館において、熊谷勝子氏を講師に迎え、令和2年度第3回データヘルス担当研修会（力量形成）を開催し、市町村の専門職（保健師・管理栄養士）計79人が参加しました。

研修会の中でまず始めに、「“自市町村の位置を確認すること”、“データを予測・蓄積すること”、“性別・年齢・疾病に分けて経年比較し、各々の関連性を読み取り、社会環境や自然環境を加味した上で繰り返し実態把握しながら整理すること”によって、課題は徐々に明らかになってくる。その課題を一つ一つ丁寧に解決するための保健事業を計画する必要がある。」と述べられました。実際に熊谷氏が市町村保健師として活動されていた際に立てた保健指導計画を基に、熊本県の高血糖の増加という課題解決に向けての保健指導計画について、実例を挙げながら丁寧に説明されました。

最後に、「成果はすぐに出ないことも多いと思うが、立案した計画を適宜見直しながら実践し続けることで、5年後10年後に結果がついてくることもあるので、諦めないで保健指導を継続して行ってほしい。」と力強いエールを送り、研修会を締めくくりました。



研修会の様子